

〔研究ノート〕

**国際学部における新規カリキュラム開拓に向けた  
フィージビリティ補足調査報告  
長期インターンシップおよび企業・地域プロジェクト演習**

海津ゆりえ・山口一美・那須一貴・横川潤・大森徹・秋山正人

〔Research Notes〕

**Feasibility Study on Development of Curriculum Focus on Long-Term-Internship and Business / Regional Project Management Skill**

**Yurie KAIZU, Kazumi YAMAGUCHI, Kazutaka NASU,  
Jun YOKOKAWA, Tetsu OHMORI, Masato AKIYAMA**

**Abstract**

Curriculum development for students to cultivate fundamental competencies for working persons is indispensable and urgent issue for today's university. This study note is the additional report of feasibility studies on two curricula relate to this matter. The first one is on the long-term-internship and the other is on business/regional project management skill.

**1. はじめに**

**(1) 研究の背景**

文教大学国際学部では、社会から求められる人材としての学生の育成を目指し、領域編成およびカリキュラムの抜本的改革を行い、2012年度から新カリキュラムがスタートした。今後2015年度までの間に新カリキュラムが完成する予定である。国際観光学科においては「観光ビジネス領域」と「観光デザイン領域」の2領域に再編され、それに伴い新たな領域ごとの科目統廃合と新設や、対称性を意識した両領域共通の科目群が設定されることとなった。またより現場に即した実学的内容をもったカリキュラムを重視し、いくつかの科目が創設された。その代表例が本研究ノートの対象としている「長期インターンシップ」(科目上は「インターンシップ」と表記する予定)と「企業／地域プロジェクト演習」である。

いずれも本学としては初めての試みであることから、開講前にフィージビリティを高めておく必要があり、一昨年度から準備を始めている(参考文献)。本研究ノートはその継続調査の結果をまとめたものである。科目の開始時期は「インターンシップ」が2014年度(5・6セメスター)、「プロジェクト演習」が2013年度である。

**(2) 研究の目的**

以上の背景から本研究ノートの目的は次の通りである。

**1) 長期インターンシップに関するフィージビリティ・スタディ(研究1)**

既に平成23年度において一部調査研究を行い、国際学部紀要にて公開したものであり、本研究

は補足調査である。昨年度は、カリキュラムの実態調査として日本と海外の「長期インターンシップ」科目の実態を調べ(「Ⅰ. 大学編」として収録)、長期インターンシップの連携可能性調査として地域(「Ⅱ. 市町村編」として自治体、公的機関、ミュージアムを調査・収録)、企業(「Ⅲ. 企業編」として収録)に対するヒアリング調査を行った。本研究は、上記において不足していたと考えられる事業種を選定して継続調査を実施した。

調査対象として、前回調査にて不足していた、エアラインおよびホテルに焦点を当てることとした。

## 2) 企業・地域プロジェクト演習に関するフィージビリティ・スタディ(研究2)

既に平成22年度において企業プロジェクト演習に関する一部調査研究を行い、山口・那須により湘南総合研究所紀要にて公刊しており、本研究は地域プロジェクト演習を中心とする補足調査を行ったものである。

## (3) 研究手法

本研究はヒアリングにより行った。

## 2. 調査結果および考察

### 2-1. 研究1 長期インターンシップに関するフィージビリティ・スタディ

#### 2-1-1. ホテルにおける調査結果

##### (1) ANA インターコンチネンタルホテル東京(ANA InterContinental Tokyo)

#### 【基本情報】

・所在地：〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33

・コンタクト先：トレーニングマネージャー 利波 直子(トナミ ナオコ) TEL 03-3505-1173

Fax 03-3505-9596

E-mail naoko.tonami@anaintercontinental-tokyo.jp

・企業の概要

日本におけるインターコンチネンタルホテルズグループの旗艦ホテル

(2007年4月に東京全日空ホテルからリブランド)

客室総数：844室

レストラン・バー施設：計11か所

宴会場：計20か所

その他施設：ショッピングやエステサロン、ビジネスセンターなど多岐に亘る施設を持つ都内でも有数の総合型シティホテルである。総売り上げなどは非公開

#### 【選定理由・視点】

日本のホテル産業は1994年にウエスティンホテル東京とパークハイアット東京が開業するまでは、ヒルトンを除き、外資系ホテルチェーンによる直接のホテル運営は行われていなかった。(1992年にフォーシーズンズ東京椿山荘が開業したが、形態としては提携であり運営主体は藤田観光によるものである。)

しかしながら、近年になり、外資系のホテルチェーンによる直接のホテル運営が行われるようになり、学生の就職先としての具体的な可能性が大きくなってきている。

これ等の背景の中で、外資系ホテルチェーンの雄であるインターコンチネンタルホテルズグループ(本部はロンドン)の日本におけるフラッグシップホテルであるANAインターコンチネンタルホテル東京での長期インターンシップの可能性について打診を行った。また、このホテルは2007年にリブランドする以前は東京全日空ホテルであり、調査(秋山)が宿泊部門長として勤務したこともあり、人事部門への照会が容易であった。

#### 【インターンシップに関する条件等】

- ・同ホテルはインターンシップを現在受け入れておらず、実施時における受け入れ予定部署、責任者等は未定である。おそらく人事部門又は配置先の上司がアサインされると思われる。
- ・学生の勤務期間や作業時間、内容についてはパートナーとなる教育機関と具体的な打ち合わせ事項となる。サービス担当部門での業務である確率が高い。
- ・勤務形態は学生が実際にアサインされた部署(現時点では主としてサービス担当部門と考えられる)におけるシフト勤務となる。
- ・賃金については支払いの対象にならない可能性が高い
- ・交通費、食事代、制服などの支給の有無とその範囲も未定である。制服などが必要な部門の場合は貸与されるが、クリーニング代の負担などにも別途打ち合わせが必要である。

#### 【学生に求められる資質】

- i. TOEIC等に関する最低点数の基準は無いが、外国人顧客が多い職場であり、上司が外国人である場合もあるので、英語での基本的なコミュニケーション能力が求められる。
- ii. 相手に対する説得力と積極的な活動能力(セルフスターター)が求められる。
- iii. 性格的には人とのつながりを保てるかの能力を重視する。

#### 【備考】

長期インターンシップについては現時点では受け入れていないが、興味のある課題であり、今後具体的に検討を行う事はやぶさかでない。また、インターンシップに関しては多くの教育機関から問い合わせや具体的なアプローチがあるが、どこの組織でもよいというわけでは無いので、パートナーとなる大学については信用に足る(所謂知り合いの居る)大学を選択したい、としている。

2012年度から新総支配人のピーター・カーマイケル氏(カナダ人、リージョナル総支配人職を兼務)が就任したが、同氏がインターンシップや従業員トレーニングを含めた長期育成制度に強い関心を持っている為、長期インターンシップは現在その制度が無いが、今後採用する可能性は極めて高いので具体的に話を進めやすいのではないかと、利波氏からコメントがあった。

長期インターンシップをこのホテルで採用してもらうためには今後の具体的な協議が必要であるが、先方は大きな興味を示しており、可能性は高い、と言える。

なお、学生の正規の就職先として考えると、新たに進出してきた外資系ホテルチェーンにとって日本の「定期採用制度」は極めて異質な、ある意味受け入れがたい慣習であり、これについては今後、慎重に進展を見ていく必要がある。

(我が国に進出している外資系のホテルチェーンとしての定期採用制度を採用しているのはヒル

トンホテルチェーンのみであるが、利波氏とのインタビューの中では外資系ホテルチェーンで海外において定着しているマネジメント・トレーニー制度の日本での採用に関して興味を示された)

## (2) JAL プライベートリゾートオクマ

### 【基本情報】

- ・所在地：沖縄県国頭村字奥間913)
- ・会社概要：(株)JAL ホテルズが運営するリゾートホテル

### 【選定理由】

わが国有数の観光デスティネーションである沖縄においてエアライン、ホテルでのインターンシップを経験することで企業実務に加え、豊富な観光資源を同時に体感し、より幅広い観光人材の育成に資するものとしたとの主旨から選定したものである。

### 【インターンシップに関する条件等】

昨年より本学学生を夏期2～3週間受入れてくれている。長期インターンシップも基本的に問題なしとのことである。無給扱いではあるが、従業員寮を無料で提供してくれ、かつ食事も支給してくれるので学生の負担は航空運賃のみであり、実現可能性は高い。なお、先方からは有給にした上で、寮費・食費を徴収するオプションもあると伝えられているので別途詳細を詰める必要がある。客層は現状が殆ど100%日本人であり、特に外国語能力を必要とはしていない。礼儀作法を常識的にわきまえ、明るい性格を持ち合わせている学生であれば可能とのこと。

### 【備考】

なお、本ホテルは沖縄本島の北部(名護からさらに1時間)に位置し、周辺にはまさに「何も無い」環境であり、一定の覚悟は必要である。実際には従業員と休日に名護市まで出かける等の息抜きをすることとなると思われ、その意味でも学生には順応性、社交性が求められる。

## (3) 宮古島東急リゾート

### 【基本情報】

- ・所在地：沖縄県宮古島市下地字与那覇914番地
- ・会社概要：東急グループが経営するリゾートホテル

### 【選定理由】

(2)に同じ。

### 【インターンシップに関する条件等】

夏期(短期間)及び長期についても受入れ可能との回答をえている。有給(時給@650円)の場合は、寮費(3000円+共益費560円)水道光熱費(夏場で約10000円)、従業員食堂(1食250円)、制服クリーニング代(@85円)は自己負担となる。これに加えて、無給扱いにして寮費等をすべて免除するオプションも用意してくれており、航空運賃負担(スカイマーク社の参入により大幅に運賃が

低下している)を勘案しても十分実現可能なものと思われる。

宮古島は素晴らしい景観と美しい海に囲まれた有数のリゾート地ではあるが、学生にとっては大変遠い存在であろうし、一歩踏み出して沖縄の離島で数か月間を過ごしてみようとする好奇心の強さも必要であろう。

#### 【備考】

客層の中に少しずつではあるが中国、韓国マーケットを取り込みつつあり、中国語、韓国語の会話能力があればそれにこしたことはないとのことである。常識的な立ち居振る舞いができ、かつ明るい性格の持ち主であることが前提となることは言うまでもない。

### (4)南西楽園宮古島シギラリゾート

#### 【基本情報】

- ・所在地：沖縄県宮古島市上野字宮国784-1
- ・会社概要：(株)南西楽園リゾート(ユニマツグループ)が経営するリゾート。「シギラベイサイドスイート アラマンダ」「ホテルブリーズベイマリーナ」の二つのホテルとゴルフコース、温泉を敷地内に展開している。

#### 【選定理由】

(2)に同じ。

#### 【インターンシップに関する条件等】

夏期(4週間程度)及び長期いずれも受け入れ可能との回答を得ている。有給(時給@650円)、従業員寮は無料で提供してくれる。食事はやはり従業員食堂の利用が可能である(1食200円)。従って実現可能性の高い派遣先と考えてよかろう。

特に「シギラベイサイドスイート アラマンダ」は全室スイートルーム、プール付きの部屋も多数ある超高級リゾートホテルでありハード、ソフト両面におけるサービス品質の高さを実体験する価値ある派遣先と言えるであろう。

#### 【備考】

語学要件その他は上記「宮古島東急リゾート」と同様である。

### (5)ホテル日航八重山

#### 【基本情報】

- ・所在地：沖縄県石垣市字大川559
- ・会社概要：(株)JALホテルズが運営するホテル

#### 【インターンシップに関する条件等】

夏期(短期)及び長期いずれも受け入れ可能との回答を得ている。基本的に無給であるが、ホテルの客室を「ハウスユース」として無料で提供してくれる。また食事は従業員食堂でこれも無料である。

なお、長期インターンシップの場合は有給とすることも十分ありうるとの感触をえており、別途詳細を詰める必要がある。

石垣島は来年春には新空港が完成し、スカイマーク社も乗入れに興味を示しており競争が促進され航空運賃レベルの低下につながる可能性が高い。従って本件も航空運賃負担を勘案しても十分実現可能な派遣先として考えられる。

なお、本ホテルはロケーションがビーチがなく、リゾートホテルとは言いにくい存在である。実際客層は冬場の周遊型の方が高い比率を占めているのが実態であり、派遣する学生には十分に予備知識を持たせる必要があろう。ただ、その分市街地に近いというメリットもあるし、何をさておいても石垣島の観光資源は宮古島をはるかに凌駕し、日本有数といっても過言ではなく、独特の文化や伝統、風物も併せ体感すること自体、大いに意義あることといえる。

学生は明るさと常識的な礼儀作法が求められている。そしてこちらも中国、韓国マーケットが徐々に増えつつあり、会話能力があればそれにこしたことはないとのことである。

## (6) ホテルオークラ・フロンティア海老名

### 【基本情報】

- ・所在地：神奈川県海老名市中央2-9-50
- ・会社概要：ホテルオークラ・フロンティア海老名はオークラホテルズ&リゾートのひとつ

### 【選定理由】

ホテルオークラグループ(オークラホテルズ & リゾート)がわが国を代表するホテル企業であり、ことにホテルオークラ東京はわが国を代表する老舗ホテルで、帝国ホテル東京、ホテルニューオータニを含めて「御三家」と称されている。

ホテルオークラ・フロンティア海老名はオークラホテルズ&リゾートのひとつで、神奈川県海老名市に所在している。ハレの利用とビジネス利用に対応したシティホテル兼ビジネスホテルの機能を有したホテルである。

湘南台駅からは小田急線と相鉄本線を乗り継いで乗車時間は約20分と文教大学湘南キャンパスから便のよく、海老名駅から徒歩で約5分のため、サービス時間によっては授業のある日でもインターンシップが可能と思われる。また調査者(横川)とホテルオークラホテルズ&リゾートは個人的に関係が深く、インターンシップでもご協力いただける可能性が高い。

### 【インターンシップに関する条件等】

今までインターンシップは専門学校が単位授与の前提で長期インターンシップを行うケースが主であったが、今後は大学とも条件次第でインターンシップの可能はあるとのこと。需給バランスでいえば宴会の人手が慢性的に足りないため、職務として有望である。

### 【備考】

大学とのインターンシップはあまり前例がないため、入念な交渉と打ち合わせが必要。ただしインターンシップ自体については決して否定的ではないので、可能性はあると思われる。

## (7) ホテル日航那覇グランドキャッスル

### 【基本情報】

・所在地：沖縄県首里山川町1-132-1

### 【選定理由】

同ホテルが日本を代表する観光リゾート地である沖縄に立地し、首里城にも一番近い人気施設である。今後の観光振興を考えた場合、沖縄でインターンシップが行えることは学生にとって貴重な経験となると思われる。

また文教大学国際学部は沖縄・名桜大学と交換留学制度を締結しているなど、沖縄と縁が深いことも選択の理由のひとつである。

### 【インターンシップに関する条件の一例】

インターンシップの期間に定めはなく、1～2ヶ月の場合は無給で大学と覚え書きを交わすことになる。リブイン(住み込み)および食事等は個人負担となる。3ヶ月以上は有給契約となるが、リブインの費用は税法上の問題もあり、電気代やシーツという名目で個人負担である。寮はないため基本的にはリブインが可能な長期のインターンシップが望ましい。制服は貸与が可能でランドリー代は会社が負担する。

主な業務内容としては短期の場合は客室、バル、レストランで、半年の場合はフロントや宴会サービスも担当可能である。

### 【学生に求める資質】

参加学生に求められる能力や資質としては、「笑顔、元気、挨拶等の基本がまずできる方。人が好きな方」とのことであった。

### 【備考】

すでに学生インターンシップの経験も豊富なようで、契約やサービス形態に関するフォーマットもできあがっている印象であった。沖縄・名桜大学での交換留学と同時並行してインターンシップを行うことができれば、学生にとっては理想的な体験となると思われる。

## 2-1- 2. エアライン関連企業におけるインターンシップ

### (1) JAL スカイ那覇

### 【基本情報】

・所在地：沖縄県那覇市鏡水150 那覇空港国内旅客ターミナル内

・会社概要：主たる業務是那覇空港におけるJALグループ便(日本航空、日本トランスオーシャン航空、琉球エアコミューター)に関わる旅客ハンドリング

### 【選定理由】

わが国有数の観光デスティネーションである沖縄においてエアライン、ホテルでのインターン

シップを経験することで企業実務に加え、豊富な観光資源を同時に体感し、より幅広い観光人材の育成に資するものとしたことの主旨から選定したものである。

#### 【インターンシップに関する条件等】

昨年より夏期2～3週間程度受入れてくれている。長期にわたる受入れも基本的に問題ないとのことだが、いずれも無給であり学生の航空運賃及び特に長期にわたった場合の多額の宿泊費負担を考えると実現は困難とみるべきであろう。

#### (2) エアー沖繩

##### 【基本情報】

- ・所在地：沖縄県那覇市鏡水 150 那覇空港国内旅客ターミナル内
- ・会社概要：那覇空港における ANA 便旅客ハンドリング

#### 【インターンシップに関する条件等】

上記 JAL スカイ那覇と同様、無給であり、現実に長期インターンシップの実現は困難であると思われる。

#### (3) (株) JAL-DFS

##### 【基本情報】

- 1) 所在地：(本社) 成田市花崎町 959 森田ビル 5F  
(羽田) 大田区羽田空港 2-6-5 羽田空港国際線ターミナル内
- 2) 会社概要：JALUX (双日グループ) と DFS (Duty Free Shoppers) の合弁会社。羽田空港及び成田空港で免税品売店を運営

##### 【選定理由】

外資 (Duty Free Shoppers INC) が 50% 入った企業において、国際線旅客に直接接する業務 (免税品販売) を体験することにより、企業実務に加え国際性の涵養もはかりたい。

#### 【インターンシップに関する条件等】

昨年より夏期 (2～3週間程度) に受け入れてくれており、長期についても受け入れ可能との回答をえている。無給であるが、短期の場合は交通費を負担してくれている。

長期の場合、勤務場所はできれば羽田に限定せず、成田空港或いは本社も含めて複数の場所で免税品店の運営全般を体験せしめたいとの先方の意向があり、現実に羽田のみでは極めて限定的な業務経験しかできないことから、インターンシップの実効あらしめるためにもこれに沿った形で実現を図りたい。

##### 【備考】

交通費負担について別途調整する必要がある。



## 2-2. 研究2 プロジェクト演習に関するフィージビリティ・スタディ

### 2-2-1. 企業プロジェクト演習

企業プロジェクト演習に関する協力先企業の候補については、湘南総合研究所紀要2012年3月号に記載済みであるため、参照されたい。

### 2-2-2. 地域プロジェクト演習

#### (1) 調査の視点

「地域プロジェクト演習」科目は、理論編(第3 Semester)、応用編(第4 Semester)から構成される一年間の専門科目である。目的は、学生の「社会人基礎力」を高めることにあり、大学卒業後に実社会で様々な地域に関わる分野で働く人材を育成するために、即応力や現場対応力、課題解決に向けた構想力の醸成に資することである。

理論編(春学期)は課題発見や解決方法等を学び、事例研究や調査を通して地域づくりについて考える力を養い、応用編(秋学期)は地域からいただいた「お題」に対し、学生たちがグループワークにより解決策を検討し、発表する。

科目進行においては、理論習得の後、学生が地域における課題の解決方策の立案に向けた調査研究、およびプレゼンテーション、フィードバックという一連のPDCAサイクルを演習として経験することとなるが、実施に際して具体的な地域との連携のもと、課題の設定や学生の提案に対する地域からの評価を受けるなど、密な連携が必要となる。

そのための演習対象としては、調査時におけるフィールドワークや調査を学生自らが容易に行える地域であることが求められ、身近な地域であることが望ましい。以上を踏まえてフィージビリティ・スタディを行った。

#### (2) 調査結果

第一次スクリーニングとして、神奈川県湘南地域県政行政センターへのヒアリング調査を行い、湘南地域下各自治体における観光関連課題の抽出を行った。第二次調査として、茅ヶ崎市及び近隣自治体へのヒアリング調査を行い、協力関係構築の可能性を探った。さらに、概ね次の条件を基準に協力依頼先として茅ヶ崎市、寒川町、大磯町に候補を絞り込んだ。

- ・文教大学から遠くなく、演習期間中の調査が容易であること
- ・他大学との提携等が存在しない、または存在するが本学との協力に前向きであること
- ・調査者との関連で協力依頼が容易であること

### 3. 課題と展望

#### 3-1. 長期インターンシップに関する課題と展望

##### (1) 長期インターンシップ実現のための課題

本調査の結果から以下のような問題点や課題をあげることができよう。

第一に、長期インターンシップの目的を明確にするとともに、受け入れ先企業に対してその目的への理解を求める必要がある。インターンシップは参加学生が将来のキャリアに関連した就業体験を行い、就業やキャリア形成に関わる意識の啓発を目的としているが、長期インターンシップの場合は、これらの目的に加えて、新たな目的を加える必要があろう。「大学文系インターンシップの活性化に関する研究」の調査結果からは、長期にわたるインターンシップの場合、与えられた一定の課題に取り組む、社員の基幹的業務の一部を経験するなどによって参加学生の学びや満足度が高いという結果が報告されている(cf. 佐・堀・堀田,2007)。このことから、長期インターンシップ期間中にどのようなことを経験することが可能かなど、大学と企業との密なる相談、連携が必要であらう。

第二に、参加学生へ長期インターンシップの目的を周知徹底する必要がある。参加学生によっては就職を希望する企業でのインターンシップを希望する傾向があり、大学としてすべての学生の希望に沿うことが難しくなり、他方、企業によってはインターンシップの受け入れを希望しているにも関わらず、学生が応募しないという場合も起こっている。その結果、企業の受け入れ枠が残っているにもかかわらず学生の希望にあわないため、結果として参加できない学生が多くいることにもなる。長期インターンシップは、大学と企業との時間をかけた相談と連携で実現することから、募集の段階で希望学生がいらないというケースが起こった場合は、今後の長期インターンシップの実現に支障をきたすことにもなりかねない。

第三に、長期インターンシップに参加した場合、参加学生が負担する費用の増大である。地方で実施する場合、航空運賃は学生の負担となることが多く、業界によっては、宿泊費、食費も学生側の負担というケースがある。2週間程度の短期インターンシップの場合は、人気企業へインターンシップをしたいという学生側の強い希望で、全費用学生負担で行っていることも過去にはあったものの、1ヶ月以上の長期インターンシップの場合は、学生への過重な経済的負担を強いることになり、実施は難しいと思われる。ただし、宿泊費、食費は企業側負担で行う場合、1ヶ月程度の長期インターンシップであれば、現在実施していることもあり、実現可能であらう。

第四に、参加希望学生へ望まれるスキル、能力やパーソナリティなどについて、さらなる情報収集が必要である。本調査では、コミュニケーション能力、常識的な礼儀作法、明朗であること、語学力(英語、中国語、韓国語など)が必要であるとの結果が示されている。しかし、業種によっては、基本的なコンピュータによる情報処理能力や操作能力やプレゼンテーション能力が望まれる企業や、問題解決能力をもっていることをあげる企業もあろう。業界、業種に関わらず必要とされるスキルや能力、パーソナリティ、あるいはその業界、業種にとりわけ必要とされるスキルなど、について情報収集を行う必要があらう。

##### (2) 長期インターンシップ実施に関する展望—長期インターンシップを効果的に行うために

長期インターンシップを効果的に行うために必要であると思われることを以下に記す。

第一に大学と企業との間で、長期インターンシップ期間中に行う学習内容についての検討と確認

が必要であろう。長期インターンシップ担当教員と企業の指導担当者との間で目的、学習内容、評価についての検討を行うこと、大学として単位認定にともなう学習時間や内容の検討などが必要である。

第二に、大学での十分な事前指導が重要である。インターンシップの効果を高めるために必要と思われる項目についての調査からは、「大学でのビジネスマナーなどの事前指導を行うこと」(82.5%)、「実習内容が事前に十分説明されること」(80.0%)、「大学での事後のフォローアップを行うこと」(72.5%)があげられている(佐藤ら,2007)。これらの結果からは、職場における基本的なビジネスマナー(挨拶、電話応対、敬語など)の事前習得やインターンシップにおいてどのようなことを行うのかなどの説明、インターンシップ実施後のどのようなことを学んだのかなど事後研修などが重要であることが示されている。これらに加えて、長期インターンシップの場合は、与えられた課題に取り組むことや社員の基幹的業務の一部を経験する(課題1を参照のこと)などを行うためには、ビジネスマナーに加えて必要と思われる事前指導を行う必要がある。

第三に、無償の長期インターンシップにくわえて、有償の長期インターンシップの検討が必要であろう。大学の所在地から離れた場所に位置する企業への長期インターンシップの場合、課題2で示したように、航空運賃にくわえて、宿泊費、食費を自己負担となった場合は、参加学生が負担する費用が増大する。長期インターンシップ参加中、学生はアルバイトができないため収入が見込めないこととなり、実施は不可能であろう。したがって、たとえば1ヶ月以上の場合には、有償の長期インターンシップにするなど、企業の所在地などを考慮し、さまざまな形の長期インターンシップを検討する必要がある。

以上、長期インターンシップ実施のための課題と展望について明らかにした。日本において長期インターンシップの必要性が指摘されているものの実際に行っている大学は多くはない。アメリカで実施されている制度化したプログラムとしてのコーオプ教育や、ドイツで実施されている資格をもつ指導員が企業の現場で実施するインターンシップ教育など、海外で行われている長期インターンシップの実施例を参考に、日本の大学における長期インターンシップのあり方を今後も検討していく必要がある。

### 3-2. プロジェクト演習に関する課題と展望

本科目を運営するにあたって想定される課題と対策は以下の通りである。

- ①協力してくれる企業の確保
- ②受講生がイメージしやすく、取り組みやすい経営課題の設定
- ③受講生がグループワークから脱落することを防ぐ

最も大きな課題としては、協力してくれる企業や地域を毎年確実に確保し続けることである。協力先を確保するためには、教員が持っている人脈は卒業生の就職先、学内合同企業セミナーへの参加企業など、文教大学国際学部と繋がりのある企業との協力体制を構築していくことが重要である。また必要に応じてキャリア支援課とも連携するなど、学内横断的な取り組みも求められる。さらに学部ホームページ等で本科目と協力してくれている企業や地域について紹介することで、協力先のイメージアップにつなげるなど、協力企業にとっても何等かのメリットを付与する必要がある。

#### 引用・参考文献

古閑博美(編著) 2001 インターンシップー職業教育の理論と実戦 学文社

佐藤博樹・堀有喜衣・堀田聰子 2007 人材育成としてのインターンシップーキャリア教育と社員教育のためにー 労働新聞社

渡辺峻・伊藤健市(編著) 2010 学生のためのキャリアデザイン入門 中央経済社

山口一美、那須一貴 2012 大学におけるキャリア形成教育とキャンパス・インターンシップ(仮想)構想の研究ー文教大学国際学部を事例として 湘南フォーラム：文教大学湘南総合研究所紀要 16号